

令和2年度(2020年度)第1回 函館市地域支え合い推進協議体 会議概要

■ 日 時

令和2年(2020年)8月21日(金) 18時30分～19時45分

■ 場 所

総合保健センター 2階会議室(五稜郭町23番1号)

■ 議 事

報告

- ・令和2年度のくらしのサポーター養成事業について

議事

- ・助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて
(おやじ世代の地域活動への参加等)

その他

■ 配布資料

- ・会議次第
- ・資料1 令和2年度のくらしのサポーター養成事業について
- ・資料2 整理された課題とその対応
- ・資料3 おやじ世代の活動者へのインタビュー結果等について

■ 出席委員(11名)

阿知波委員, 池田委員, 川上委員, 酒井委員, 佐々木委員, 所委員, 能川委員,
林(珠)委員, 林(優)委員, 丸藤委員, 村岡委員

■ 傍 聴(5名)

■ 市職員(事務局)

地域包括ケア推進課 小棚木課長, 岩島主査, 古口主任技師, 田畑主任主事, 関主任主事
高齢福祉課 黒田課長

■ 会議要旨

岩島主査

議事に入る前に、委員の交代があったので紹介したい。

函館市町会連合会と函館市民生児童委員連合会で役員改選があり、函館市町会連合会からは川上委員、函館市民生児童委員連合会からは村岡委員が新たに就任した。

(川上委員、村岡委員より挨拶)

池田会長

それでは報告「令和2年度のくらしのサポーター養成事業について」市から説明願いたい。

関主事

(資料1「令和2年度のくらしサポーター養成事業について」に基づき説明)

池田会長

意見等はあるか。

岩島主査

活動団体とのマッチングに関して、7月30日に既存団体への意向調査を行い、また、8月7日・11日には老人クラブ方面協議会で事業説明を行っているが、結果はどうだったか。

阿知波委員

既存団体の意向調査については、社会福祉協議会で把握している団体で、養成研修で見学先となっている団体や、普段から活動を密にしている団体にまずは意向調査を行った。結果としては、コロナ禍であるため、それが落ち着いてからという前提であるが、5か所からボランティアの受け入れが可能と返答をいただいている。その他、サロンについては、有料で実施していることからボランティアは受け入れられない、開催が不定期のため現在ボランティアを受け入れてない、新規の参加者は募集していないとの返答をいただいた。

老人クラブ方面協議会に関しては、老人クラブ連合会と意見交換を行った際に、全老人クラブを網羅する地区協議会の総会の話を知ったことから、今回1回目として総会の場でくらしのサポーターの説明を行った。今後必要書類を整理し、ニーズの確認を行い、サポーターとのマッチングを行う予定である。

説明会参加者からは、サポーターはどのような方なのか、老人クラブの活動に馴染んでもらえるのだろうかなどという声も聞かれたことから、地道にくらしのサポーターについて、宣伝する必要があると感じた。

町会連合会事務局には今後の協力依頼ということで一度お話に伺っているが、具体的な話はこれからである。

今後は190近い町会へどのような形でくらしのサポーターとのマッチングを周知するか検討していく事になる。

池田会長

くらしのサポーターの養成は行われているが、コロナの関係もあり、マッチングの部

分は弱い。社会福祉協議会が中心となって実施していくが、くらしのサポーターの認知度をもっともっと高めなければならないと思う。川上委員は話を聞いてどう思ったか。

川上委員

お恥ずかしい話だが、くらしのサポーターについて初めて聞いた。町会の役員でもこのような状況である。町会連合会の事務局を通じて周知しても効果は薄いかもしれない。裾野を広げる形で、個々の町会に説明して歩くことも必要と感じた。

3か月に1回、7～8町会がそろった方面の役員会が必ずあるので、そのような場で説明を行うのも1つだと思う。

池田会長

川上委員から話があったが、町会連合会のような大きな組織に話をするよりも、個々の町会や方面の役員会に話を持っていった方が、効果があると思う。

委員から他に何かあるか。

村岡委員

くらしのサポーターと活動の場とのマッチングが上手くできていないとのことであるが、くらしのサポーターが手伝いを希望しても、近くに活動の場が無ければ、手伝うこともできないと思う。函館市内は広く、色々な地域があることも、マッチングを難しくしている1つの原因かと思う。

池田会長

林委員，地域包括支援センターから見てどうか。

林（珠）委員

先ほど説明があったとおり、くらしのサポーター1名に、2層協議体に参加いただいた。桔梗町の地域ケア会議だったので、桔梗町に住んでいるくらしのサポーターに声をかけた。どの組織も人材の役割がある程度固定されているので、そのような中でくらしのサポーターにどのような役割を担って頂くかは今後の課題である。

また、北浜町の活動に今後くらしのサポーターも参加してほしいと考えているが、既存のメンバーの中に馴染んでいけるのかという不安はある。

池田会長

色々な意見を頂いたので、これらを参考に社会福祉協議会が中心となってくらしのサポーターのマッチングを行ってほしい。

それでは次に議事「助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて（おやじ世代の地域活動への参加等）」市から説明願いたい。

田畑主事

(資料2「整理された課題とその対応」に基づき説明)

おやじ世代の地域活動を探るための、実際の活動者へのインタビュー結果等については丸藤委員に説明をお願いしたい。

丸藤委員

(資料3「おやじ世代の活動者へのインタビュー結果等について」に基づき説明)

委員から今の説明を聞いて意見や感想等はあるか。

酒井副会長

確かに男性は褒めると動いてくれるような気が、中々それはできないので、やはり男性を引っ張り出すのは難しいと思う。女性は話をする場があれば行きたがるが、男性はそうはいかないと思う。

丸藤委員

佐々木委員はどうか。

佐々木委員

1つの方法であるが、現在、認知症カフェなどが開催されているが、これを男子会のようなものに当てはめ、実施するのはどうだろうか。小さいことから始めていくのも1つの方法かなと思う。

丸藤委員

川上委員は大門の祭り等で活躍されていたと思うが、今の説明を聞いて何かアイデア等があれば教えてほしい。

川上委員

春と秋に行われるクリーングリーン作戦は、目的が掃除ということで、町会の男性も参加しやすい。また、うちの地区では介護施設も多あり、施設職員にもクリーングリーン作戦に参加していただいております、ここで参加者間の交流が生まれるので、介護施設のイベントに、できるだけ町会の男性が参加するという流れが生まれた。

今年に関しては春のクリーングリーン作戦はコロナで中止となったが、夏に行った雑草取りでは地域包括支援センターの方や介護施設の職員の方にも手を貸していただいたので、町会として、そのようなイベントに参加いただいた方には、新年会や観楓会の開催の際には声をかけ、交流を深めようとはしている。

丸藤委員

林（優）委員、シルバー人材センターの立場としてどうか。

林（優）委員

シルバー人材センターの会員の平均年齢は約73歳となっているので、おやじ世代の対象とはならないかもしれないが、最近周りとの交流を避ける方が増えている。このような方たちをどうやって引っ張り出せばいいか、分かれば私も知りたい。

丸藤委員

所委員どうか。

所委員

この資料の中で、退職者の集まりの活動についての記載があったが、知り合いに学校や郵便局の退職者がいて、音楽活動として、おやじバンドのようなものをやりたいと言っていた。

このような学校や郵便局など規模の大きい団体の退職者に声をかけてみるのも1つではないか。

また、今現役で活動している人達が所属する団体で、施設等に訪問し活動したいと思っている団体があれば、そこに声をかけるのも1つだと思う。

丸藤委員

林（珠）委員，地域ケア会議の北浜町会で企業の方も参加されていると思うが，おやじ世代の活躍に心当たりはないか。

林（珠）委員

この世代が一番難しいと思う。確かに力になると思うが，発掘して何をしてもらおうか悩む。そもそもうちのセンターが関わっている企業は，ボランティアへの意識が高く，企業として地域貢献をしたいと考えている。逆に個々のおやじ世代を対象とするより，企業を対象とした方が組みやすいかもしれない。

おやじ世代で沢山時間を持っている人もいるが，それらの人を発掘する方法が難しいと思う。退職直後の人達は，昔の職場の繋がりで活動しているかもしれないが，そのような人達がボランティアに関心を持つだろうか。昔の職場繋がりの活動が途切れたとき，もしかすると地域へ目を向けてもらえるかもしれない。その時が地域活動への加入を促す一番のチャンスになると思う。そのような人材をどう発掘するか，地域包括支援センターとしても知りたい。

丸藤委員

能川委員はどうか。

能川委員

私も年配の男性を活動の場に誘い出すのは難しいと思う。私の時代位までは60歳で定年であった。私は40代からボランティアを行っていたが，仲間内の60歳で退職した方をボランティア団体に誘うと入ってくれていた。今はご存じのとおり，再雇用で65歳まで働かなければならない方が増えた。65歳で退職した方にボランティア団体へ入らないかと声をかけても，自分のために残された時間を使いたいと断られてしまう。

また，私は別の高齢者の団体にも加入しているが，その団体は60名くらい参加していて，男女が半々である。この団体の男性陣が増えたきっかけは，麻雀をやっている場面が，新聞に掲載されたことだった。現在麻雀を行っている方は男女半々で40名程度おり，その中から，年に一回地域貢献しようとして亀田川の掃除が生まれた。平均年齢が75歳位ではあるが，男性陣も活躍している。しかしながら，この掃除から別のボランティア活動へ男性陣を誘い出す策が無いのが実情である。趣味の活動への男性陣の参加率は高いが，ボランティア活動となると参加率は低くなってしまう。もしかするとボランティア活動の中で男性陣にやってもらいたいことが明確になっていけば，参加してくれるかもしれない。

丸藤委員

村岡委員，民生児童委員連合会の活動からなにかあるか。

村岡委員

昭和地区のこととなるが，100名程度所属する老人クラブがあり，活動資金を確保するために，公園の草刈りを市からの委託を受け実施している。何カ所も公園があるため草を刈り，1週間後に袋に詰めるという作業で，主に男性が活躍している。

他の町会に聞いたところ，老人クラブに男性自体が少ない場合もあるので，その老人クラブは上手くいっている方だなと感じた。今後はボランティア活動にいかにして男性に参加してもらおうかが課題になると話を聞いて思った。

林（珠）委員

2人の話を聞いていて、すごいヒントが入っていたと思った。

趣味の会や老人クラブなど色々な団体があると思うが、その団体とボランティア活動をマッチングしてはどうか。年に1・2回は社会貢献しようかなという流れがあると思うので、そこをうまくボランティア活動に繋げていくと定着していくのではないかな。

丸藤委員

趣味の会等でやっていることが、趣味だけではなく、ボランティア活動のようなものに流れていけば良いのではないかと私も思う。

阿知波委員、本日のくらしのサポーター養成研修を見て、男性の参加者がいつもより多いと思ったがどうか。

阿知波委員

私もそう思っていた。36名の参加者のうち10名が男性だった。いつもより比率は高いと思う。

丸藤委員から説明いただいた内容や本日委員からいただいた情報は、くらしのサポーターのマッチングにも取り入れることができると思う。色々な手法を取り入れながら地道にやっていきたい。

丸藤委員

池田会長どうか。

池田会長

今日は色々なヒントが出てきたと思う。おやじ世代のことを今考えているのは、地域福祉の考え方が変わってきている点にある。

今回コロナの関係で高齢者が引きこもり、誰にも気づかれず亡くなった事例があった。今後コロナの関係が終わっても、高齢者が引きこもり続ける可能性がある。地域がどうやってこのような高齢者を皆で助け合っていくか、皆で助け合っていくために我々に何ができるか考えていかなければならないと思う。

岩島主査

それでは皆様からひととおりご意見等いただいたので、本日の議論についてはここまでにしたいと思う。いただいたご意見等を参考に、生活支援コーディネーターにおやじ世代の具体的な活動に向けた取組みを行ってもらいたいと思う。

池田会長

全体を通して何かあるか。

(特に無し)

では、これで議事を終了したい。進行を市にお返りする。

岩島主査

次回の日程については決定次第委員の皆様にお伝えする。

これをもって、函館市地域支え合い推進協議体の今年度第1回目の会議を終了する。